

●とき 平成15年10月22日(水) 1:30pm~3:30pm
 ●ところ 法市農村舞台(三好町東山宇法市 船渡神社境内)

阿波人形浄瑠璃とアフリカ民俗音楽

三好町法市農村舞台公演

●あいつづ 1:30pm~1:45pm
 法市農村舞台の歴史を語り、法市農村舞台の魅力を伝える。法市農村舞台の歴史を語り、法市農村舞台の魅力を伝える。

●プロローグ 1:45pm~2:00pm
 法市農村舞台の歴史を語り、法市農村舞台の魅力を伝える。法市農村舞台の歴史を語り、法市農村舞台の魅力を伝える。

●阿波人形浄瑠璃 2:00pm~2:30pm
 阿波人形浄瑠璃の魅力を伝える。阿波人形浄瑠璃の魅力を伝える。

●アフリカ民俗音楽の国際演習新ダンス 2:30pm~3:00pm
 アフリカ民俗音楽の国際演習新ダンスの魅力を伝える。アフリカ民俗音楽の国際演習新ダンスの魅力を伝える。

夫座は、村人が集めた檜の葉と青竹、野草で飾り付けたもの。季節ごとに、どこにどんな魅力があるかを村人は知っている。その法市の魅力をあますことなく舞台に注ぎ込んだ。開発の及ばぬ過疎地だからこそ、場所の魅力が今でも守り継がれている。そのことが舞台での感動をより豊かにしてくれる。

祭りとともに舞台を受け継いでいく

復活の日、一人の青年が久方ぶりに法市に帰ってきた。舞台復活に掛けてきた祖父の活躍に立ち会うためだが、彼自身も神戸で人形芝居を手習いしている。そんな因縁めいたものを感じさせる出会いだ。そう感じられたのは、祭りの時間のせいかもしれない。少なくとも農村舞台は、祭りのなかで繰り返し使われ、村人たちの手を掛け、心情を重ねてきた

場所。たとえ土地を離れても、祭りが近づけば故郷を思い出し、舞台に集まってくる。祭りのなかで、もつと楽しみを共有できるよう農村舞台を突き詰めていく。そのことが舞台を継ぐために極めて重要だと思われる。

法市では、人の繋がり、場所の魅力、祭りの精神などを大きな力に変え、舞台を蘇らせた。過疎の環境を生かしたその挑戦はまだ始まったばかり。いかに継続していくかが今後の課題。



2 0 0 3 年 秋 ・ 三 好 町 法 市 農 村 舞 台 公 演 ア ラ カ ル ト

